

空き家解消で入居希望者の願い実現を

広次

ひろ っぐ
忠彦

通信

No. 178

2007年8月5日

日本共産党大分市議団



実質空き家すべてを

改修して、抽選に

「なかなか当たらない」「空き家があるのになぜ入れないのか」など、入居希望者の願いがかなえられない状況が続いています。4月1日現在、実質空き家が87戸あるにもかかわらず、今年5月の募集戸数は32戸にとどまりました。改修には一定の費用がかさむため、あまり汚れていない空き部屋から改修をおこない募集する方法をと

っています。市営住宅などの改修は、中小業者の仕事を増やすことにもなります。実質空き家をすべて改修して、募集すること、空き家の改修予算を増やすことを求めました。

効率的な改修おこない 実質空き家解消に努力

土木建築部長は「なお一層の効率的な空き家改修に努め、多くの募集戸数を確保することにより、実質空き家の解消に努める」「限られた財源の枠内での優先度や緊急度等を最大限考慮して」などと、答弁しました。

新たな建設より

早く安くできる

「1戸あたりの改修費用は、数十万円から120万円程度である。破損や汚れのひどい住宅の場合でも150万円程度と見積もれば、実質空き家全部でも、7千万円から1億円程度でできる。新たな建設より、改修のほうが安くできる。財当局と話し合い、予算の確保に努めるように」と要望しました。

雨漏りすべし対策を

自治会でも要望しよう...

「雨漏りがする。急いで改修して欲しい」と、小屋鶴市営住宅の方から要望がありました。「自治会としても要望しているが、いっしょにやってくれない」「合併前には年次計画で、屋根の改修をおこなってきたが、合併後には、それを大分市が引き継ぐと聞いていたが、すすんでいない」などの声が寄せられました。必要な改修・営繕などはきちんとおこなうこと、2年間も放置してきた問題、屋根の改修は雨漏りをしている住宅は早急に全部改修し、その他の住宅は計画的に改修すべきだと要求しました。

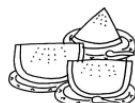
18年度からの改修が 19年度にずれ込んだ

「屋根の改修については、平成17年11月に当時の自治委員さんから住宅課へ要望があり、雨漏りが心配される棟については、平成18年度から計画的な改修をおこなうことにしていたが、諸般の事情から、本年度にずれ込んだ」と答弁しました。

トピックス

7月7～10日 今年も、核兵器廃絶を求めて、国民平和大行進が、宮崎から長崎にむけてすすんでいます。大分市は、7日に臼杵市より引き継ぎ、10日に別府市に引き継ぎました。今年も、全日程を歩くことはできませんでしたが、土日も、沿道のみなさん

の心あたたまる激励に感激しました。核兵器は、生命と共存できません。一日でも早くなくすことが求められています。今年の秋におこなわれる国連総会にむけて、『すみやかな核兵器の廃絶を』署名を大きくひろげたいと考えています。ぜひご協力をお願いいたします。



今年のはじめに原水爆禁止世界大会・国際会議に参加を予定しています。昨年、世界大会に参加して、各国政府代表とのフォーラムがあり、参加したとき、これだけ近くで、世界の声を聞くことができることに感動しました。今年も国際会議で、もっと学習を

